

こたえ 地層のでき方

基礎⑤

地層のでき方

がけや工事現場などで、土地の断面を見ると、色や、つぶの大きさのちがう層が、しまもようになって重なっていることがあります。このような層の重なりを、地層といいます。

地層の多くは、流れる水のはたらきによってできます。川の水は、山の土や石をけずり、下流へ運びます。そして、海や湖に流れこむと、運んできたれき、砂、どろを、底に積もらせます。つぶの大きいれきは岸の近くに、つぶの小さいどろは、岸から遠くまで運ばれて積もります。

長い年月の間に、このようなことがくり返されて、層が何重にも積み重なっていきます。下にある層ほど、古い時代に積もったものです。地層は、ふつう、横に広く続いています。

地層の中から、貝や植物などの化石が見つかることがあります。化石を調べると、その層ができたころの様子を知る手がかりになります。たとえば、アサリなどの貝の化石が見つければ、その地層ができたころ、そこが浅い海だったと考えられます。

また、火山が噴火したときに、ふき出した火山灰が降り積もってできる地層もあります。火山灰の層のつぶは、角ばっているのが特徴です。

地層

1

色やつぶの大きさのちがう層の重なりを、何といいますか。

2

つぶの小さいどろが積もるのは、どこですか。

ア 岸の近く
イ 岸から遠く
ウ 山の上

3

地層の、下にある層と上にある層では、どちらが古いですか。

ア 下にある層
イ 上にある層
ウ どちらも同じ

4

地層の中から見つけることがある、昔の生き物のあとを何といいますか。

化石

おうちの方へ

・5年の「流れる水のはたらき」とつながる内容です。ふり返りながら読むと理解が深まります。